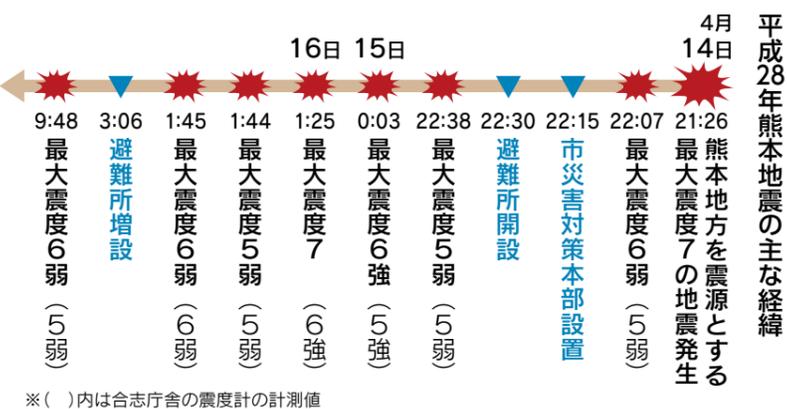




—写真—
1石灯笼が崩れ落ち鳥居が崩壊した竹迫日吉神社
2崩れ落ちた屋根瓦や外壁 **3**キャビネットが倒れた須屋市民センター事務所 **5**高速沿いの道路やマンホール周辺に入った亀裂 **7**鳥居が割れた大池神社 **10****11****12**備品や書類が散乱した合志庁舎内

—写真—
13本が床一面に散乱した西合志図書館 **14****15**合志庁舎に避難した住民 **16**配水管の損傷で水が漏れ、天井が一部崩落したヴィーブル **17**食料品が品薄になったスーパー **18**多くの商品が棚から落ちたホームセンター **19**避難所では多くの人が肩を寄せ合った **20**危険な屋内を離れ屋外で朝を迎える避難者 **21**度重なる余震を計測する合志庁舎の震度計 **22**水道水は濁り飲めなくなった **23**がれきであふれかえった仮置き場

平成28年(2016年)熊本地震 合志市では震度6強を観測



16日の朝、見慣れたはずの家・まちを見渡すと、そこにはいつもと違う光景が広がっていた。水道から流れる薄茶色に濁った水、破損して散乱した食器や家具、割れた多数の屋根瓦やガラス、崩れ落ちた壁、亀裂が入った道路、崩壊した鳥居。多くの店舗は休業し、学校は休校。ガソリンスタンドには長い行列がで

き、緊急に設けた家屋廃材の仮置き場には、がれきなどが山のように積み上げられた。また、二次災害防止などのため、16日から本市を含む県内約10万5千戸で都市ガスの供給が停止した。水道は、市内のほとんどの地域で断続的に濁り水が発生し、飲用水として使用できない状況となつた。

4月14日午後9時26分頃、熊本県で最大震度7、マグニチュード(M)6.5の地震が発生。本市でも震度5強を観測した。震源は熊本地方の地下約11キロ。日本で震度7が観測されたのは東日本大震災以来4回目、九州地方では観測史上初。気象庁は「平成28年(2016年)熊本地震」と命名した。

続いて16日の午前1時25分頃。最初の地震による動揺がおさまらぬまま、本震とみられる震度7、M7.3の地震が再び熊本を襲った。本市では震度6強を観測。その後も幾度となく余震が続き、大きな被害と恐怖をもたらした。

14日午後10時30分頃、市災害対策本部は自主避難所9カ所を開設した。しかし、16日の本震やその後の余震の影響で避難者数はさらに増加。避難所はピーク時で21カ所に増え、6629人が避難した。着の身着のままの状態が集まった避難者。合志庁舎ではロビーや廊下、屋外にも人があふれ、多くの住民が不安な夜を過ごした。